Newsletter

Vol.21　2013.6.30

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol.21
会　長　岡田加奈子（千葉大学）

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目　次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・1
ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
各種委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・2
養成大学の展望　大学紹介－北から南－・・・・3
養成教育セミナーのお知らせ・・・・・・・・・・5
総会・養成教育フォーラムのお知らせ・・・・・・5
事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・6
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

会長挨拶

－時代に翻弄されず、
使命を果たす－

会長
岡田 加奈子(千葉大学)

我々協議会も意見具申を行いました「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm）が 2012 年 8 月には中央審議会から出されたことは、すでにご報告いたしました。それに基づき、教員養成は修士レベル化の方向性で進むかと思いきや、2013 年 4 月に自民党からは、教員希望者に准免許を与えて学校に配属、数年の試用期間を経た上で、本免許を与えるインターン制度を導入する案が出されております。

“教員養成制度は何処へ”と足元が揺らぐ印象をもたれる方もおられるかもしれません。しかしながら、「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」（教育再生実行会議）でも触れられているように、政治が時に錯綜しようとも、教員養成の目指すべき方向は、教員の実践能力の向上であることになんら違いはありません。我々養成大学においては、“養護教諭の実践能力の担保、そして、向上”のために、“どうすればよいか”ということを、検討し、推進していくこと以外にほかなりません。未来に進むべき道やその内実を、根拠をもって提案・推進することこそ、養成大学協議会の使命といえます。

つまり、養護教諭としての資質・能力を向上させる養成教育並びに研修の内容と方法、そしてそれらにかかわる制度等の検討を行い、それを担保・改善する活動を行っていくことこそ必要といえます。そのために、カリキュラム検討委員会と養成制度委員会等を中心とした検討とそれを踏まえた活動を推進していきたいと思っております。

養護教諭は 1 校に 1 人の学校が多く、初任時から、学校全体にわたる多くの役割と責任を担うことを求められます。同様に、養成大学においても、養護教諭養成の主たる担当は実質的には、一人という大学もあると伺います。大学内で孤立無援になることなく、さらに大学間の連携・協働を強め、我々も“養成教育の実践能力の向上”と“それを支える制度などの環境を改善”していきたいと思っております。そのため、今年新たに総会の“前日”に開始いたします「ワークショップ」では、養成セミナーをさらに一歩具体的な内容を学べる企画を検討しており、夜には、会員間の交流をさらに深める会を開催したいと考えております。

最後になりましたが、日本養護教諭養成大学協議会・前会長の高橋香代先生が中央教育審議会委員（第 7 期、平成 25 年 2 月 15 日発令）に選ばれました。我々

にとりましても大変心強いことと思っております。そこで、今年度の総会では、教員養成、中でも養護教諭養成の未来を見据えて、高橋香代先生にご講演を頂くことにいたしました。ワークショップ並びに総会にも多数の会員の皆様のご参加をお待ち申し上げております。

ご挨拶

くらしき作陽大学子ども教育学部長
高橋　香代先生

日本養護教諭養成大学協議会の皆様には、お変わりなくご活躍のことと存じます。私は、この度 30 年勤務しました岡山大学を定年退職し、4 月から倉敷市にあるくらしき作陽大学子ども教育学部に勤務しています。子ども教育学部では、おもに幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭を養成しています。養護教諭の養成はないので大学協議会には参加できませんが、貴協議会が益々発展されることを願っております。

くらしき作陽大学に勤務することにしたのは、退職後は少し落ち着いて地域の学校教育と教員養成の連携協働の仕事を続けていきたいと思ったからです。しかし、思いがけず今年の 2 月に第 7 期中央教育審議会委員に就任したことで、落ち着いて生活する予定が大幅に変更になりました。現在、教育制度分科会、大学分科会、スポーツ・青少年分科会、初等中等教育分科会教員養成部会に所属して、月に 2～3 度上京している状況です。教員養成部会では、養護教諭養成についてもぜひ関心を持ってくださいと発言をしました。

ご存じのように政権交代により、様々な政策変更が検討されています。平成 25 年 5 月 28 日に発表された教育再生実行会議の「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」では、「教員養成大学・学部については、量的整備から質的充実への転換を図る観点から、各大学の実態を踏まえつつ、学校現場での指導経験のある大学教員の採用増、実践型のカリキュラムへの転換、組織編成の抜本的な見直し・強化を強力に推進する。また学生の学校現場でのボランティア活動を推進するなど、大学と学校現場との連携を強化する。」との方向性が示されています。いずれにしても学校現場と連携して実践力を育てる養成教育と、養成・採用・研修の一体化は推進されていくものと思います。9 月の総会には皆様にお会いできる予定ですので、楽しみにしております。

各種委員会報告

「養成制度検討委員会」　活動報告

委員長　後藤　ひとみ
（愛知教育大学）

9 名中 7 名の出席により、第 3 回委員会(2 月 18 日/名古屋）を開催しました。議事に先立って、養護教諭養成にかかわる種々の情報交換（愛知教育大学の大学院授業で杉浦守邦先生宅を訪問してご示唆いただいた内容について、静岡市の保健室登校支援事業や横浜市の保健室支援事業について、私立大学の課程認定の状況についてなど）を行いました。

次いで、いずれは共同作業が予想されることから、昨年 12 月 22 日に行われたカリキュラム委員会の研修に参加していただいた鈴木委員からの報告を受けました。資料から、保健体育審議会や教員職員養成審議会、中央教育審議会の答申内容および関係法規の改正内容におけるポイントを再整理し、今後の課題を再確認することができました。

さらに、懸案事項である「教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議」の 2 つのワーキンググループ（WG）の検討状況について協議しました。修士レベル化のWGは検討途中でしたが、これまでの議事報告をもとに、「現行の大学院において専修免許を取得する場合の実践的な必修科目の内容と方法」、「修士レベル化における養護教諭養成の制度設計」、「新たな免許制度（基礎、一般、専門）における短大養成の位置づけ」などの課題があることを確認しました。

「カリキュラム検討委員会」 活動報告

委員長　大原　榮子
（名古屋学芸大学短期大学部）

本委員会は 2012 年度から 3 年間の計画で活動を進めています。 3 年後の 2014 年度には、養護教諭養成のカリキュラム案を提案していくことを目標にしています。

1 年目の 2012 年度は、検討委員会を 3 回開催し、4 つの観点から協議しました。①保健師養成課程における実践力と卒業時の到達目標と到達度（案）を参考にして養護教諭の実践能力の検討。②「学校保健統計」や「児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書」、「子どものからだと心白書」等のデータを基に現在の子どもの健康実態や課題を捉え、これらを踏まえて養護教諭に必要不可欠な力量等の検討。③過去の答申や免許法を検討確認及び、これまでの本協議会報告書の調査結果を分析し、「教諭」の動向、教職と専門科目のバランス等養成教育の課題を検討。④「養護教諭研修プログラム作成委員会報告書」や各自治体が作成している研修プログラム内容、研修の受講体制等の実態を把握。このような多角的な視点から総合的に、養護教諭養成カリキュラムを検討しています。

2013 年度は、2012 年度の検討課題に加え「修士レベルの教員養成課程の改善に関するワーキンググループの報告」等の資料から、修士レベル化を念頭において検討していきます。

「FD 検討委員会」　活動報告

委員長　荒木田　美香子
（国際医療福祉大学）

FD 検討委員会は「養護教諭養成に関する倫理教育の充実について」のテーマで活動を行っています。倫理教育に関する研究は本協議会では初めての取り組みです。今年度は 2 年目となり、10 人のメンバーで活動を行います。 1 年目は倫理、養護教諭の専門職としての倫理について文献収集と分析を行なうと共に、委員会に杏林大学の蒲生忍先生を講師にお招きして倫理教育の考え方や 4 ボックス法について学びました。また、 養護教諭が現場で経験している「～すべきだけれどもできなかった」「～する際に倫理的な困難を感じた」といった倫理に関するジレンマ事例を収集し、養護教諭の倫理要綱に当てはめた場合、どの基準に該当するジレンマであるのかを分析しました。今年度は、養護教諭養成課程における教育内容の構築などを目指しています。最終年度の 3 年目には、養護教諭養成の教育課程における倫理教育の内容等を提案できるようにし、FD 委員会として、養護教諭養成にあたる先生方と共に倫理教育のあり方について検討する機会を設けていきたいと考えております。

養成大学の展望
大学紹介　北から南

飯田女子短期大学
家政学科家政専攻
保健養護コース　菊地　紀美子

本学は、長野県飯田市にあり、南アルプスの美しい山並みを望む緑豊かなキャンパスです。県内出身者のみでなく、新潟県や山梨県出身の学生もおり、豊かな環境で安心して学んでいます。また、本学での学びは、養護教諭の専門知識や技術を学ぶだけでなく、人としての基本を大切にしています。浄土真宗の教えに基づき建学の精神を「美しく生きる」の一句に表現するとともに、具現するための方向性を①他者を認めあうこころを養い、「聞く」「問う」「語る」の基本を学ぶ。②形あるものから、形なき世界を尋ね、無限なるものへの感受性を養う。③私の人生が無意味でないことを知り、他者と共感しつつ自主的に生きるとしています。それらの教育方針に基づく独自のカリキュラムの一つとして、毎週一回アセンブリーアワーがあり、流されやすい毎日の生活を大切に過ごそうという意味で、仲間の声に耳を傾け、自己を見つめ直す時間となっています。

養護教諭二種免許の養成課程は、開学間もない昭和 44 年に設置され、さらに専攻科養護教育専攻を平成 20 年に設置し、養護教諭一種免許・学士が取得できるようになっています。本コースの卒業生は、長野県内はもちろんのこと県外で現職養護教諭として勤務され、活躍されている先生方がたくさんいます。

本学の保健養護コースの学生は、養護教諭二種免許状の他に、保健児童ソーシャルワーカー、メディカル

クラーク、ドクターズクラーク、調剤報酬請求事務技能認定、医療秘書実務士、介護職員初任者研修課程修了、介護保険実務士等の免許・資格も取得でき、２年間の学びは、充実しています。また、経済的理由などから短大を選んでくる有能な学生も多く、真摯な授業の取り組みに、養護教諭の夢を諦めないよう学生への後押しを全力で行っています。さらに、専攻科養護教育専攻の学生は、二種免許を取得しているため、地域の小中学校へ養護教諭ボランティアとして活動し、地域の先生方から感謝され、実践を学ばせてもらっています。専攻科卒業後は、即戦力となっている点が特徴として挙げられます。

新潟青陵大学看護福祉心理学部
看護学科　養護教諭養成課程

中村　恵子

新潟青陵大学は、日本海を望む新潟市の近郊に位置し、平成 12 年 4 月に開学しました。看護学科と福祉心理学科との連携の下に、「こころの豊かな看護と福祉」の実践を目指しています。看護学科では、対象者との信頼関係を大切にし、健康上の諸問題を保健・医療・福祉・教育の領域と連携して解決できる能力の育成に努めており、昨年度までに 848 人の卒業生を輩出しました。養護教諭養成において人数制限を設けていないことが本学の特長であり、これまでに養護教諭一種免許状の取得者数は 262 人を数えました。そのうち、65 人の卒業生が養護教諭の職に就いています。

教員養成には教育や養護を専門とする教員 4 名が当たっており、それぞれの授業内容を関連させて、養護実習の指導をしています。教育委員会及び校長会の全面的な協力を得て、4 年次の春期と秋期にある小・中学校 2 週間ずつの養護実習の円滑な実施を図っています。事前指導では、実際の場面を想定した模擬授業や健康診断・救急処置演習を行っており、それまでの授業で獲得した知識を活用し、発展させています。また、演習での学びを生かし、実際に健康診断ボランティアに参加することで、養護教諭の職務についての理解を深めています。

養護実習に加え、特別支援学校や高等学校においての発達支援実習や病児訪問ボランティア活動、児童相談所、病院などでのメンタルフレンド活動、小・中学校での学習支援ボランティア活動など、多くの子どもたちや様々な人達と交流できる機会を設けています。また、養護教諭志望の学生の多くは、学校保健領域を卒業研究のテーマとし、文献研究に加え、養護教諭への面接調査などの調査研究を行っています。このように、学校現場での体験や学習を多く取り入れた実学を重視する活動が、子どもや学校のよさを実感することにつながっているようです。養護実習の報告会や教員採用試験対策講座においての先輩の体験談やアドバイスも、学生の励みになっています。

熊本大学教育学部
大学院教育学研究科

後藤　知己

熊本大学教育学部には、大学院教育学研究科（修士課程 2 年）が設置されおり、学校教育実践専攻と教科教育実践専攻の 2 専攻（8 専修）から成っています。養護教育専修は、学校教育専修、特別支援教育専修とともに、学校教育実践専攻に属します。

担当教員は、平成 25 年 4 月現在、学部では養護教諭養成課程を担当しています 5 人（教授 3、准教授 2）と、1 年コースの養護教諭特別別科を担当しています 2 人（准教授 2）の合計 7 人です。

院生定員は、学校教育実践専攻で 1 学年 13 人ですが、養護教育専修はその中で 3 人程度を目安に毎年募集しています。養護教育専修には、養護教育学と教育保健臨床科学の二つの柱がありますが、入学者が、どちらかを決めて専攻する形にはなっておらず、両者のバランスを考えつつ、本人の興味や研究内容に基づいて、それぞれの科目を履修する形をとっています。

現在の在籍者は、1 年生、2 年生とも 2 人ずつで、一人のみ入学の年度も多く、正直なところ、もう少し入学者が増加してくれる事を希望しています。現役教員の入学が最近無いため、改善策の検討を行っているところです。

養護教育専修学生は、2 年間で 32 単位の科目を履修するとともに、学部の養護教諭養成課程の学生実習にも参加し、将来の指導者としての経験も積んでいます。研究面では、テーマは、本人の希望に基づき、指導者との話し合いで決めています。テーマによっては、熊本県下の小中高校の養護教諭を始めとする先生方の協力を得ながら、学校現場をフィールドとした研究を積極的に行っています。

本専修は、養護教諭養成課程、養護教諭特別別科とともに、教育学部東教室という教育学部本館とは道を隔てて徒歩5分ほどの離れた場所に位置する建物を使用しています。建物内は学生、教員とも養護教諭養成教育関係者のみです。そのため、とても家族的な雰囲気の環境で、日々、勉強、研究に励んでいます。

第1回　養成教育セミナーのご案内

◆日　時：2013年9月5日（木）　13:00～16:30
（交流会 16:40～18:40）
◆場　所：女性就業支援センター4階
（〒108-0014　東京都港区芝 5-35-3）
◆テーマ:：養護教諭の実践力育成にむけた取り組み
◆発表者：
・教職実践演習の展開
：飯田女子短期大学(菊地紀美子先生、奥井現理先生)
・先輩訪問の取組を通じて―「こんにちは先輩」
：埼玉県立大学（櫻田淳先生）
・学内で行う「養護活動実習」のススメ
：愛知教育大学（後藤ひとみ先生）
16:40より、交流会（参加費3000円：申し込みの上当日お支払いください）を予定しております。

「もう少し、じっくりと話をしたかった」「テーマを絞って話し合いたい」という会員の声を反映して、協議会としては初めての養成教育セミナーを開催させていただきます。今年度はＦＤ委員会が運営を担当いたします。

テーマは、教育実践演習、現場と大学教育のユニフィケーション、養護教諭の実践能力の向上のための授業の工夫など、いずれも会員の皆様の参考にしていただけそうな実践的な内容を組み入れています。時間もたっぷりとっていますので、じっくりと聴いて、話して、納得できる時間になると思います。

また、セミナーの終了後には同じ会場内で、交流会（軽食を準備）を開催する予定です。

参加申し込みは、このニューズレターに同封の申込用紙にてお願いいたします。会員校は、評議員以外も参加可能です。皆様のご参加をお待ちしております。

日本養護教諭養成大学協議会
2013年度総会および養成教育フォーラムのご案内

◆日　時：2013年9月6日（金）　10:00～16:15
◆場　所：女性就業支援センター4階ホール
（東京都港区芝5丁目35-3）
◆開　会　10:00
1．総会　10:00～11:00
2．委員会報告　11:00～11:30
（教育課程検討委員会、養成制度検討委員会、FD検討委員会）
昼食
3．養成教育フォーラム
1）講演「養護教諭養成のこれまで（仮）」13:00～14:00
女子栄養大学客員教授　三木とみ子先生
2）講演「教員養成のこれから（仮）」　14:05～15:05
くらしき作陽大学子ども教育学部長
中央教育審議会　委員　高橋　香代先生
3）討論　15:15～16:15
◆閉　会　16:15

このニューズレターに同封したご案内のとおり、今年度は昨年までとは異なる会場となります。最寄駅は同じＪＲ田町駅または地下鉄三田駅で変わりませんが、ＪＲの駅の降り口は反対側（三田口）になります。お間違いのなきようご確認をお願いします。なお昼食(弁当）の斡旋は行いませんのでご了承ください。会場内及び周辺には飲食店が多数あります。また会場内に飲食可能な部屋を確保する予定です。

参加申し込みの締め切りは8月1日（木）です。日本養護教諭養成大学協議会事務局までメール、またはFAXまたは郵送でご返信ください。総会に欠席される会員校は、必ず委任状のご提出をお願いいたします。

総会は会員大学に所属する方はどなたでも参加できますが、議決権は、1会員校あたり1票です。会員校の皆様におかれましては、ご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

協議会活動報告
事務局　鈴木　裕子（国士舘大学）

【2012年度第7回役員会】

日　時：2013年3月18日（月）13:00～16:00
場　所：東京キャンパス・イノベーションセンター
出席者：荒木田、池添、大原、岡田、後藤、斉藤、櫻田、鈴木、三木　記録；工藤（千葉大学）
議　事：「来年度のスケジュール案」「新年度会員送付書類」；変更点について確認された。「2013年度総会等案について」；会場の予約、養成教育セミナーの内容、総会および養成教育フォーラムのプログラムと講師に

ついて検討した。「事業活動報告書」；編集計画について確認した。「理事の補充について」；退職する三木理事の補充として次点者の今野洋子先生（北翔大学）を理事候補とした。また、斉藤理事より辞意が表明され承認した。

報告事項：「各種委員会活動」；各委員会から活動状況が報告された。「広報関係」；ニューズレターの発行計画および印刷料金について報告された。

【2013 年度第 1 回役員会】

日　時：2013 年 5 月 25 日（土）13:00～17:00
場　所：東京キャンパス・イノベーションセンター
出席者：荒木田、池添、今野、大原、岡田、後藤、
　　櫻田、宍戸、鈴木、津島　記録；工藤(千葉大学)

報告事項：補充の理事候補者として今野洋子先生、宍戸洲美先生の紹介があった。担当および委員会所属については退任した理事の後を引き継ぐことを確認した。年間活動計画の一部修正、決算および予算案の見通しについて報告された。各委員会の活動、ニューズレターの発行、事務局の受付状況についてそれぞれ報告された。

議　事：「総会および養成教育フォーラム」「養成教育セミナー」;変更点､企画､資料作成について確認した。

今年度は養成教育フォーラムの運営を養成制度検討委員会、養成教育セミナーの運営を FD 検討委員会が担当することとした。「会則変更」；役員の解任および補充の規定等について総会で提案することとした。

事務局からのお知らせ

基本調査用紙及び会員登録用紙のご提出にご協力いただきありがとうございました。教育セミナー､総会、養成教育フォーラムの案内と「参加申し込み用紙」を同封しました。総会の議決権は各大学 1 名と規定されていますが、教育セミナー、交流会、総会、養成教育フォーラムの参加者は、会員大学様の教員であればどなたでも参加できます。申し込みはファクス、またはメールにて 8 月 1 日（木）まで事務局までお願いいたします。

事務局　櫻田淳

ホームページ更新について

2013 年度総会および養成教育フォーラム､今年度新たに実施する養成教育セミナーのご案内について掲載しております。また会員大学の名簿につきましても、更新しておりますのでぜひご覧ください。ホームページでは、今後より見やすく、活用しやすい情報共有の場として内容等新たに発展させていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日本養護教諭養成大学協議会ホームページ：
「http://www.j-yogo.jp/」
ホームページ担当：池添　志乃(高知県立大学)

会計よりお願い

会計業務は昨年度に引き続き荒木田美香子副会長と津島ひろ江理事が担当させていただきます。各大学から納入されました貴重な会費をこれまで同様、大切に管理していきますので、ご協力の程よろしくお願い致します。昨年度は、皆様のご協力で会費を全大学から治めていただきました。また、皆様が節約を心がけてくださったおかげでほぼ予定通りの支出ができました。引き続き、会費納入につきましては 8 月 1 日時点で会費が納入されていない場合は、総会での決議権がなくなりますので、できるだけ 7 月 20 日（土）頃までに会費の納入をお願いいたします。

会計担当：荒木田美香子（国際医療福祉大学）
　　津島　ひろ江（川崎医療福祉大学）

★☆　編集後記　★☆

昨年度に引き続きニューズレターを担当させていただくことになりました。新たな年度を迎え、教育界でもさまざまな変革がなされる中、質の高い専門性を有する養護教諭の養成が、養成大学においても求められていることを実感します。今年度は、本協議会の新たな取り組みとして、養成教育セミナーを企画しています。それら新たなトピックスについてもニューズレターで、情報発信していきたいと思います。会員校の皆様とのネットワークづくり、そして教育の発展につながる研究・協議の情報をお伝えしていければと思っております。昨年度の反省と学びを活かしながら、今年度のニューズレター作成に取り組んでいきたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

池添　志乃（高知県立大学）

【事務局】　埼玉県立大学　櫻田　淳
Fax：048-973-4374（事務局専用）
Tel　：048-973-4326（櫻田研究室）
E-mail　：　yogogimu@spu.ac.jp